

中川運河水辺再生への挑戦 (魅力ある水辺空間の創出)

愛知県名古屋市

一般社団法人 中川運河キャナルアート

1 社会資本の概要

中川運河は、名古屋港と旧国鉄笹島貨物駅とを結ぶ運河として建設され、昭和5年に開通、水運による物流の軸として名古屋の経済・産業の発展に大きく貢献しました。全延長8.2Km、最大幅員91mの規模を有しており、当時は「東洋一の大河」と伝えられていました。その後、水運物流の減少を背景に、中川運河の果たす役割を見直し、平成24年に名古屋市と名古屋港管理組合が共同で「中川運河再生計画」を策定しました。運河再生に向けた取り組みの一環として、当時の面影を残す倉庫群や、市街地における貴重な水辺空間を活かしたイベントが地域住民やNPO法人等の手により積極的に行われています。



倉庫を活用したアートイベント



水辺空間を活用したボートイベント

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

名古屋市都心西部に位置し、水運物流の中心として栄えた中川運河を地域住民の力で再生し、その魅力を広く発信することを目的として平成22年より、運河沿いに立ち並ぶ倉庫内外、水上を活用したアートイベントの開催、住民参加による中川運河の清掃活動等の活動を通じて魅力ある運河空間の発信を図っています。アートイベントの開催にあたっては、名古屋市中川区出身の世界的アーティスト浅井信義

氏を中心に国内外で活躍する若手作家と協働し、倉庫の壁を活用したプロジェクションマッピングや水辺空間を生かしたコンサート等を開催し、中川運河の魅力を発信しています。また、豊かな水辺空間の創出に向けて地域の造園業者等や地元住民の協力を得て、運河沿いにコスモスの植栽を行うコスモスプロジェクトや清掃活動を実施し、中川運河の魅力創出にむけて継続的な取り組みを図っています。



コスモスプロジェクト



倉庫を活用したバイオリン演奏会

3 地域への成果や波及効果等

毎年住民とともに運河周辺での清掃活動続け、その後コスモスの植栽活動を実施しています。清掃をすることで住民らが運河への愛着を持ち、コスモスが開花するころにアートのワークショップに参加する等、住民が積極的に運河に接する機会が着実に増加しています。アートワークショップには小学生から60歳代まで幅広い年代からの参加があり、アートを通じた世代間交流の場となっています。



地元住民とのイベント「運河について語ろう」



アートワークショップ

喜びの声



●受賞者

一般社団法人 中川運河キャナルアート
理事長 松林 正之

●コメント

市民の方々にやすらぎの場を提供できる中川運河に向けて、環境整備が進むとともに、アーティストの方々が日常的に活動できる場が確保でき、中川運河沿岸から斬新な作品やアイデアが次々と生まれる日が一日も早く来ることを願っています。中川運河キャナルアートは今後も頑張ります。ご指導・ご支援いただきますよう、心よりお願い申し上げます。

●活動内容

アートイベント、清掃・植栽活動等

●活動の経緯

平成21年 中川運河キャナルアート委員会発足
平成22年 Project No.Zero 開催
(以後毎年開催)
平成24年 一般社団法人
中川運河キャナルアート設立
平成25年 中川運河再生シンポジウム2013開催

所在地

愛知県名古屋市

活動主体及び連絡先

一般社団法人 中川運河キャナルアート
(050-3482-0313)

対象となる社会資本

中川運河
※管理者：名古屋港管理組合

